

学年通信



2013.7.20 第2号

継続は力なり

学年主任 宮嶋 祐一

生徒の皆さん、いよいよ待ちに待った夏休みが近づいてきました。いろいろと楽しい予定も立てていますが、実は受験ということを考えると、高校2年生にとっては、受験勉強のスタートを切る“最も”重要な時期と言っても過言ではないのが、この時期なのです。皆さんは高校生活が1年半過ぎ、昨年と違って大学受験についてかなり具体的に考えていることと思います。また、数々の模擬試験を体験して、客観的に自分が今どのような位置にいるのかもわかっていると思います。つまり、簡単に言えば「今から始めないと間に合わない」という人がほとんどだと思います。

では、何から手をつければ良いのでしょうか。それは、「当り前にやるべきことを当り前にやる」ということです。いきなり大学入試問題に手を出しても今の時点では手も足も出ないでしょう。まずは授業でやったことを、学校でやったことを確実に自分のものにするのです。これは、高2でないとできないことです。高3になってからこんなことをやっていたら、それこそ時間がいくらあっても足りないことはもうわかりますね。それから、「高1や高2の内容を勉強しても入試には出ないんじゃないの」とまさか考えている人はいませんね。前々から言っていますが、高校の学習というのは、それぞれの学年で完結するものが多いです。例えば数Iは高1でやって、高2ではやりません。でも入試では数Iの範囲が出題されます。世界史も高1でやった範囲は、高2では授業でやりません。ということは、高1の範囲を早めに復習して自分のものにならなければならないということです。高2でやったことは、今のうちに復習して自分のものにするのです。復習は早ければ早いほどよい。人は物事をため込んでしまうと、もう嫌になってやりません。

それから、高2の前半の皆さんの様子を見ていて反省して欲しいことがあります。それはJEMコンの取り組み方です。高1では合格率は高く推移していたのに、高2になって急に合格率が低くなってしまいました。でもJEMコンでやっている英単語や古文単語は入試に必要なものなのです。せっかくそれらを覚えるチャンスなのに、それを皆さんは全く活かしていません。やらなければいけないことなのに、やるべきときにやらないでいつやるのですか？小テストのような細々とした取り組みでも継続してやれば大きな力となります。「継続は力なり」なのです。以前学年集会で、イチロー選手が天才と言われるのは、努力を続けられる天才なのだという話をしました。地道な努力を続けることが、一見遠回りのように見えても結局は一番の近道で、大きな力となります。小テストなどもばかにせず、地道な努力を続けられる人間になってください。一般社会でも、そのような人が評価されるのです。

ということで、夏休みです。いろいろと計画を立てていることだと思いますが、学習活動もここがあらためてのスタートです。がんばってください。スタートは早ければ早いほどいいですよ。

夏休みの学習の方針

いよいよ受験生となる夏休みがやってきました。受験まで約550日。そのうちの40日とはいえ、授業もなく学習に向き合える時間となると、「されど40日」であって、大きな意味を持つと言えるでしょう。そもそも、もうしばらくすれば、誰だって受験生として真剣に学習するでしょうし、来年の夏休みとなれば、1日10時間やるのも当たり前になるでしょうから、他人よりがんばって追いつくことがどれだけ難しいかわかるでしょう。

では、この夏休みに何をすべきか？一言で言ってしまうと、特別なことは何もありません。それは、受験に必要な全てであり、いつも学習をしていることの積み重ねに他なりません。高校2年生にもなって、「宿題か否か」などというくだらないこと、「提出するかどうか」「出さないと不利益があるかどうか」などというくだらないこ

とを考えているようではどうしようもありません。受験に必要な科目を、成績が上がるべく、宿題かどうかなどとは関係なく、学習計画を立てるだけの話です。

「宿題に+αの学習が必要」なのではありません。

「普通の学習＝受験勉強＝受験のための学習に、夏休みならでは宿題が+αされる」ということです。

もし、学校の先生が出した宿題が、受験勉強に通じるものであるならば、それは「ただやる」「終わらせる」のではなく、自分が「理解する」「わかる」「身につける」ように学習しなければただの無駄な時間です。

来年の夏休みに課題はありません。課題を出したら「受験の邪魔だ」とさえ言うでしょう。しかし、高校二年生だと、宿題を喜ぶ保護者もいるに違いありません。それは「宿題でなければやらない」からですね。これは「宿題以外は勉強しなくて良い」「最低限だけやればよい」という君たちの態度の裏返しです。君たちのいう最低限とは何でしょうか。「宿題だけをやっていれば第一志望に届く最低限」なのでしょう。

おそらく君たちのいう最低限とは「怒られない」「進級できる」「びりにならない」程度のことを言っているでしょう。では、いつから、最低限以外のことをはじめるのか、そしてそのとき、本当に合格する実力をつけることができるのか？

夏休みが始まる現在は550日前です。

秋になり、面談をしている頃には、430日前頃になっているでしょう。

科目選択をして、チャレンジセンターを受験する頃には365日、1年を切っています。

高校三年生の4月はすでに250日前です。

部活を引退する6月頃で200日を切っています。

来年の夏休み前は180日、夏休みが終われば140日、後期の授業開始で100日を切っています。

受験まで550日と書きましたが、高校三年生になる頃には、残された時間の半分をもう使い切っているのです。世間一般の進学校の高校二年生が、ここから受験勉強をはじめているなら、高校三年生から始める君たちは、その倍の勉強量、勉強時間を確保しなければ追いつけない計算になります。(千葉県立のH高校やF高校の生徒は、まだ始めないかもしれませんが、本校よりランクが上の学校としては実績がよいとは思えません。)

もちろん、シンククエストをはじめ、クラブ活動や学校行事に熱中することもとても大切です。学習より重要かもしれません。そのことと、受験勉強をしないことは、何の関係もないはずですが。クラブ活動に汗を流し、友達と出かけ、さまざまな体験をし、研究をし、レポートをまとめ、オープンキャンパスに行き、家族と旅行すること、受験に必要な科目の学習を計画的に行うことは両立ができるはずですし、できないとするなら、いくら、クラブで人間性を鍛えても、社会に出ても役に立たないのではないのでしょうか。

仕事を学習に置き換えたなら、仕事よりも大切なことがある、大切なことを重視した時には仕事をしている暇はない、仕事をするときには、大切なことでもやめる、捨てる、ということなのでしょう。

さあ、夏休みです。自分なりの目標を持ってください。学習に関しては、目標達成シートを二週間で書き直しましょう。気合いが入らない人は、気合いを入れてくれる先生に、夏休み中でも会いに行きましょう。目標達成シートを見てもらえばよいだけです。ちょっと面談をして活を入れてもらえばよいのです。そして、自分が自分の人生のために、自分のやるべきことを作る、そして実行する、そんな自立した君たちになる夏であることを期待しています。

文系

英語

文系理系共通

英語の学力を向上させるには、大まかに考えて三つの力が必要です。①単語の力②文法の力③読解の力です。このように書くと、当たり前のように思う人が多いことでしょう。しかし実際に自分が日ごろどのように学習しているかを振り返ってみると、この三つのバランス考えて学習している人は少ないのではないのでしょうか？単語だけ頑張ってみたり、文法の力だけをつけようとしてみても、英語の学力はなかなか上がりません。

新しく覚えた単語が文法の学習中にでてきたり、確認した文法事項が読んでいる読解問題にでてくる、とい

ったようにお互いリンクしているからこそ、定着していくのです。繰り返しますが、三つの力をバランスよく伸ばすことが大切です。くれぐれもそれぞれの力をバラバラにとらえてはいけません。

また、模擬試験や入試では必ずと言っていいほど配点が高いのが読解問題です。7月の特別考査では、時間との戦いがいかに大変なものか、実感した人も多いことでしょう。この夏休みに心がけてほしいことは、英語を英語の語順のまま読む、ということです。一つ一つの英文を日本語に変換して読んでいるようではいつまでたっても速く正確に読むことはできません。この夏休みに、日本語への依存から脱却できるようにしましょう。これは2年生のうちから努力しておかないと、来年大変苦しむことになるでしょう。

文法の知識を身につけたり、英文の読解に慣れたりすることが大切なのは言うまでもありませんが、実際に試験でどのように出題されるのかを確認するためには問題を解くという作業が必要です。実際に問題を解き、その際、なぜそれが正解なのか不正解の選択肢ならば、なぜそれが不正解なのか、説明できるようにすることで必ず成績はあがります。

今のあなたを形成しているのが過去のあなたであると同様に、来年のあなたをつくるのはこの夏のあなたです。何が必要かよく考え、充実した夏休みにしてください。

国語

現代文

受験型の問題集を買ってひたすら解くことが重要。基本的に現代文は、初見の問題が出題されますので、できるだけ多くの問題を解くことが大事です。1題が、25分～30分、一冊の問題集に10題程度しか入っていませんので、一日30分の学習として、10日で問題集が終わります。苦手意識のある人は一日一題、問題集4冊ぐらいを目標に頑張りましょう。

とりあえずの目標として**問題集を10題は必ずやること(課題とします)**。

一日30分程度を割けずに、苦手の克服をしようというのは虫のいい話です。その際、100字から400字程度の要約をするように心がけると力が付くでしょう。問題集は、私大文系は私大評論型(一般的な現代文問題集)、国立文系は一般的な問題集と記述型の問題集を使う必要があります。要約をすることで、筆者の思想の整理ができ、これはあとあとの勉強にも役立ってきます。みなさんの解き方を見ていると、その場で言われていることは字面では理解できるが、筆者の言いたいことまでは理解が到達していない人が多いように思われます。これは、その文章の背後にある思想が理解できていないからだと思います。授業で扱った文章や問題集で読んだ文章を要約しながら整理しておくことで、新しい文章を読んだときに整理されたものの中から思想が浮かぶようになり、読解の助けになるでしょう。また、要約力が問われる問題が私大・国立問わずよく出ているので、その対策にもなります。

要約の練習や、小論文の対策として(推薦・AOなどを意識している人は特に)、**社説ノート**に取り組みましょう。社会で起こっていることに対して問題意識を持つこともとても重要です。進路を選ぶ際にも役立つでしょう。**読書**も新書など進路を意識したものを選ぶとよいと思います。

また、今年オーストラリア研修に行った経験を生かして、「**JICAエッセイコンクール**」に応募しましょう。

タイトル「世界と日本の幸せのためにー私がしたいこと、すべきことー」原稿用紙4枚以内、応募用紙はJICAホームページからダウンロードすること

JICA以外のコンクールに応募する場合には、作品をコピーし、コピーを提出し、自分で応募することを原則とします。AOや公募を考えた場合、自分の行きたい大学が主催するもの、(たとえば慶応の論文や中央の環境論文など)あるいは、学部学科に関連するものがベターです。インターネットで「作文・コンクール・高校」などで検索すると、コンクール、コンテストをまとめたホームページにヒットしますので、さがしてみることをおすすめします。

なお、**課題(読書・社説・問題集・作文)**はすべて**前期成績に算入します**ので、準備しておくこと。

古文

文法と単語をまず終わらせること。文法は、学校で購入した参考書で構わないが、使いにくい場合は、自分で

合うものを書店で購入する。現在出版されている参考書に大きな違いはないので、フィーリングのあうものを選択して良い。ただし、読むだけでなく、必ず併設されている問題を解くこと。この確認をおろそかにするようでは学習とは言えない。したがって、文法の問題集を合わせてやるとよい。

単語は、とにかく前半で覚えきる。英語と異なり、単語から現代語訳を覚えるだけで構わない。また、「単語」と「現代語訳」を覚える前に、「語の成り立ち」「漢字」などが書いてある「説明」をよく読む。丸暗記より、意味づけが重要。

以上のことを踏まえた上で、読解練習を積むこと。おすすめは、「古文解釈の実践」(駿台文庫、関谷浩)。その解説本が「古文解釈の方法」。また、やや易しいものでおすすめは「富井の古文解釈をはじめからていねいに」(東進ブックス)。ただし、こちらは練習問題が少ないので、読解練習のできる問題集を購入して、必ずやること。

その際、一度目は絶対に辞書を引かない。二度目は辞書を引く。三度目が解説を読む。解答は必ず2種類(辞書を引かない解答、辞書を引いた解答)作っておき、三度目で答え合わせをする。辞書を引いてしまったところは、文法にせよ、単語にせよ、必ず覚える。

漢文

基本的に漢字と句形。漢字は明説漢文の後ろにまとめているリストを覚える。古文の単語にあたるもの。続いて、句形は、漢字から全てが引き出せるように、つまり、漢字だけの白文を見て、返り点、送り仮名、意味が引き出せるように覚えること。句法の問題集については、明説漢文で十分だが、「漢文ヤマのヤマ」など、いくつか取り組みやすいものもあるので、書店で購入するのもよい。漢字リストはついていないケースが多いので、明説漢文で覚えること。

以上を古文と同様に、読解型の問題集で実践しながら、確認していくこと。

古漢に関して

必ず単語(漢字)、文法(句法)の学習と、読解の学習を平行して行うこと。一週間の学習でどんなに少しでもこの3つが入っていないと効果はない。つまり、最低でも、六週間で、古文6題、漢文6題の読解問題をこなしていることが最低条件。6題やったからといって成績があがるとは保証できないが、夏休みに古文、漢文の問題を目にしていらないようでは、忘れるばかりで、成績は落ちるにちがいない。

社会

基本的に、受験勉強を意識した学習をすることが重要です。地歴は基本的に時間との戦いです。ひとつひとつの項目が無関係とは言えませんが、数学や英語のように基礎的な知識の上に積み重なっていくのではなく、それぞれの地域や時代、政治や文化などそれぞれ独立して学習することも可能です。

したがって、地歴を高3になってはじめるということは、

「全分野数/250日」

で、学習することになります。高2の現在から始めるということは、

「全分野数/550日」

ですから、高3になってはじめると、今から始める人の2倍がんばる必要があります。

地歴は時間との戦いです。時間と成績は正比例するといっても過言ではありません。ですから、高3になるまでに、受験勉強の半分の範囲を終わらせること、つまり、高1、高2で学習したことを3年生になってやり直さないで済むように、完璧にしていくことが重要です。

① 揃えるもの

参考書、教科書、一問一答などの問題集、実践型の問題集

② やること

A 覚えるべき事項の整理=単元ごとに、教科書、参考書の事項をノートに整理していく。マインドマップのような図解が望ましい

B 整理したノートの記憶=そのノートを覚えること

C 覚えた項目の確認

その1 マインドマップの再現

その2 400字程度の文章化＝図解したモノを文章で再現

その3 一問一答などでの知識の確認

その4 実践問題での確認

③ まず通史を終わらせる

基本的に、まず通史を終わらせて全体像をつかむのが先決です。苦手な生徒の場合、実況中継などの参考書を使ってまず通史を理解するとよいでしょう。通史は、「すぐわかる」「〇〇の流れ」「駆け抜け」「タテから見ると」というようなタイトルの参考書や実況中継型の参考書、もちろん教科書などが使えると思います。

④ 世界史選択者は1年生の復習を早く終わらせる

政治経済、商学部などでは、近現代しか出題されない大学もあります。近現代はすでに高1で学習していますので、まず復習してしまいましょう。

いずれにしても、一刻も早く受験勉強をスタートすることが大事で、歴史でアドバンテージが作れると、受験勉強に余裕が生まれます。逆に歴史が遅れると最後まで他教科に時間が割けなくなります。まずスタートさせてください。地理については理系の部分も参考にしてください。

数学

①センター試験でのみ使う人

目標は1月のチャレンジセンターで75%を超えることです。数学を記述型の試験で使わないのであれば、受験対策問題集は、センター試験向けのものを用意すればいいと思います。学校で配布したセンター短期攻略問題集は多くの先輩が**受験対策の「はじめの一步」**に用いている本です。大いに活用して下さい。ストップウォッチなどで時間を意識しながら、早く正確に答えを導く練習をしましょう。

②記述型の試験でも数学が必要な人

記述型で数学を使うということは、理系の人と同じレベルで勉強を進めていくことになります。文系だし高2夏はほとんどにと考えている人は（いないと思いますが）考えを改めてください。既に受験で必要な分野の9割は授業で終わっていますので、自分の問題集で各分野を仕上げていきましょう。FocusGoldが難しいという人には、薄めの問題集による演習も悪くないと思いますが、結果として難関大の受験に合格する人たちは「厚めの参考書をやり抜く根気・体力」を持っているのも事実です。やることの詳細については、理系の記述を読んでください。①で書いたセンター対策と平行して、バランスよく学習を進めましょう。

後期は教科書の内容が終わり次第、総合演習に入ります。この演習の時期までに、基本的な事柄をしっかりと復習しておく、演習がより効果的に定着します。なお、勉強方法等、いつでも相談に応じますので、いらしてください。

理系

英語

文系理系共通

数学

与えられた課題だけやって安心しないこと。

センターチャレンジまでに、既習内容を一通り完成させる計画を立ててください。目標は1月センターのチャレンジで85%を超えることです。I+A・II+Bそれぞれ、どの分野から復習するか、どこまで深く復習するか、よく考える必要があります。人それぞれやらなくてはいけないことは違います。本気で取り組み、自分のやり方を模索してください。秋以降、やり方の模索から始めていたのでは受験本番に間に合いません。なお、8月河合模試の出題範囲と今後の学習分野との関係を考えて、夏のお薦め復習分野Best3は次の通りです。（順位が

優先度を表します。個人差がありますから参考までに)

- | | | |
|-----|----------|--------------------------------------|
| 第1位 | 「2次関数」 | … 多くの分野で基本となる内容。模試の結果で点差が開く分野でもあります。 |
| 第2位 | 「図形と方程式」 | … 上と同様。また、8月河合模試では必須問題の出題範囲に。 |
| 第3位 | 「三角関数」 | … 後期に学習する「関数の極限」では、定着している前提で授業が進みます。 |

とりあえず、8月学研ハイレベルや河合模試の対策をしてみて、自分のやり方でどこまで通用するのか、試してみるのもよいでしょう。学校で配布したセンター短期攻略問題集は多くの先輩が受験対策の「はじめの一步」に用いている本です。大いに活用して下さい。ストップウォッチなどで時間を意識しながら、早く正確に答えを導く練習をしましょう。また、難関大志望者は「整数」分野の対策が肝です。夏以降のハイレベル模試では(選択問題でなく)必須問題として出題されます。この点を怠りなく。

今のうちにやっておきたいことを書いてみました。参考にしてください。

今年のうちにやっておきたい3つのステップ

- | |
|---|
| ①定義・定理や公式の暗記(5秒で思い出せるように!) |
| ②主要解法パターンの定着(いわゆる定石、重要例題の解答方針を手続き記憶として暗記する) |
| ③難問への対応(初見問題で方針を立てて解く実践練習。問題集の章末問題、ハイレベル模試などが効果的) |

なお、文・理を問わず、数学の試験で出題大学側から要求される能力をシンプルに言うと、計算力と論証力です。(ここでいう論証力とは、証明問題に限らず、論理的に物事を推し進めるための記述力のこと。)どちらの力も、日頃から意識して取り組まないと衰えてしまいます。日々の演習の継続で「骨太な計算力と、たくましい論証力」を身につけましょう。

最後に、復習だけは終わらせておかないと、3年次にやらねばならない分量の多さに圧倒されてしまいます。無計画にやって受験にうかるはずがありません。計画の立て方も、やってみなくてはわからないことがたくさんあります。なお、勉強方法等、いつでも相談に応じますので、いらしてください。

理科

【物理・化学】

物理はなかなか点数が伸びない分、伸びるときは一気に伸びる科目です。100点が出やすいですが0点も出やすい科目です。化学は学習した量に比例して成績が伸びる科目です。0点は出にくいですが細かいことも出題されるので100点が出にくい科目です。逆の性質を持っているように思えますが、基本(教科書)を押さえなければ点数が取れないという点は共通しています。

いわゆるセンターが教科書レベルと言われますが、授業中の演習や7月考査でそれがただの暗記ではないことは十分わかっていると思います。しかし矛盾するようですが、このセンターレベルに達するベースは基礎の基礎と言われ、ある程度覚えなければならない部分です。ですので問題集の基本問題等を解くときはわからなければすぐに答えを見てしまってもかまいません。基礎の基礎は昔の大天才(ニュートンとか)が考えだしたことから、あれこれ考えても簡単に答えが出てくるわけがありません。すぐに答えを見て大天才の知識を身につけた方が得です。ただし答えを見た問題は時間を置いて解き直し、答えを見なくても解けるように定着させる必要があります。何回やり直せば定着するか、人によって異なりますが平均3回くらいでしょう。**7月考査が振るわなかった生徒はこの「基礎の基礎～センターレベルの問題」に取り組んでください。**過去の定期試験の問題に取り組むというのも有効です。

また、皆さんが目指そうとしている難関大の入試ではそのセンターレベルを基礎として、思考力、応用力、時間内に解く力、計算力が求められます。このレベルになってくるとすぐに答えを見る、というのは少しもったい

ないです。しかし一定時間ペンを動かして(←ここが肝心)、どうしても解けなければ答えを見ましょう。ここで肝心なのは思考力・応用力をつけるためにはペンを動かさなければならないということです。ただ頭の中であれこれ考えるだけでは思考力・応用力はつきません。面倒でも紙に書いて考える。また、答えを見た場合は時間を置いてから解く、これは基本です。そしてこれが難関大合格に時間がかかる理由でもあるのです。**7月考査である程度自分の力が確認できた生徒は「入試問題」に取り組んで**ください。すでに入試範囲の約半分を終えようとしている時期ですから解ける問題は決して少なくありません。例えば物理であれば力学、化学であれば酸化還元などの入試問題は解ける状態にあります。また、この機会に第1志望の大学の問題に挑戦するとよいでしょう。ゴール(入試問題)を今の時期に明確にしておけば逆算しやすくなりますので、目標達成シートも書きやすくなり、合格への最短ルートを進むことができます。また、これから先入試までにやらなければならないことは増えていく一方で、時間はどんどん減っていきますから時間のあるうちにやれることをやっておくべきです。

最後になりましたが、勉強するときは傍らに参考書を必ず準備すること。先生に聞こうにも夏休みはつかまらないことが多いです。9月になってからでは何がわからなかったかもわからなくなります。参考書には先生1人分の知識が詰まっています。

【生物】

生物基礎は、90%以上の高校生が履修している科目です。分子生物学から生態まで幅広い分野を含んでおり、これからの時代に必須の知識となっています。生物・化学選択者の人たちは、生物基礎の教科書が既に終わっていますので、問題集を使い知識の定着をして下さい。後期は難易度が高い「生物」の学習に進みますので、この夏休みを有効に使って下さい。物理・化学選択者の人たちは、一年間をかけて学習していきます。夏休みは、前期の復習をし、期末テストにそなえて下さい。

国語

現代文、古文、漢文ともに文系のところを見ること。理系とはいえ、センターで合格点をとるためには、理系と言ってもやることは変わりません。勉強を省略したり、手を抜いたりすれば、その分成績は上がらなくなります。使う以上、やるしかないということを頭にたたき込み、文系と同じ学習をしてください。

現代文の課題も共通。作文コンクールの参加とともに、読書ノート、社説ノート、問題集ノートの提出も意識すること。

理系の皆さんへ

まず、自分がセンター試験だけで国語を使うのか、それとも文系学部受験や東大や看護など、国語が一般入試、二次科目として存在するかを意識してください。

センター試験だけで使う人

学習法は、文系と変わりませんが、読解型で使う問題集は、センター対策の問題集を購入するとよいでしょう。もちろん記述型の問題集で基礎読解力を培うことはできますが、選択肢型の問題集に慣れておくことも必要です。来年度、本校3年の選択科目、センター演習では、センター試験の過去問題集(過去10年分の本試・追試)を教材としますので、予備校で出しているオリジナル問題集を手にして取り組むのがよいと思います。

答え合わせをする際、自分の選んだ選択肢が○か×か、その理由だけでなく、必ず、現代文であれば、構成や要約、筆者の紹介などを読み、この文章の言いたいことを理解しようと努めることが重要です。言っていることがまったく分からなければ、その文章の背後にある思想を理解していないということになります。キーワード読解などで、その文章に合いそうなジャンルの説明をまず読みこんでみましょう。古文、漢文であれば、現代語訳と本文を照合させ、自分がわからなかったところを必ずチェックしてください。問題が解けたかどうかは、たまたま問われたかどうかであり、センターでまず大事なことは本文がきちんと理解できたかどうかです。できなかった理由が、文法か、単語か、それとも解釈か、そうしたことを意識して復習することが重要でしょう。また、得てしてセンター型の問題集は、基本的な作りになっていないので、難しく感じても、文系と同じような問題集を使った方が効果がある人もいます。

センター以外で使う可能性がある人は、文系にアドバイスしたことを参考に、自分が狙う大学の出題傾向に合

わせた読解問題集を選んでください。基本的には、文系と同じように重要科目と位置づけ、準備を進める必要があります。

いずれにしても、理系にとって、国語はどうしても後回しになる科目です。しかし、三年生になると、数学ⅢC、物理、化学に信じられないほど、時間を取られ、国語にますます時間を割けなくなります。その結果、国語の成績が上がらずじまいで、そのために国公立をあきらめざるを得ない人がたくさん出るので。高校2年生でできないものは3年生になってできるわけがない、ということ胸に刻み、7月考査の反省をいかして、チャレンジセンターで最低でも130点～140点が取れるように、この夏の学習に取り組んでください。

社会

基本的に理系選択者はセンター試験の対応になります。社会は数学などと異なり、積み上げ型の科目、基礎がわかっていないと次に進めない科目でなく、分野ごとに取り組むことができる科目です。しっかりと学習してしましましょう。とくに、高2の最初に授業で取り組んだ地形の分野は、この後扱う気候と並んで、毎年必ず出題される分野です。今のうちに復習をして、地形分野については完璧にしておきましょう。

地理

① 用意するもの

教科書、資料集、地図帳、全体像がわかる参考書、辞書となるような参考書、基本問題集、できればセンター型の分野別の問題集

② やること

A まず、ノート・プリントをもとに教科書、資料集、参考書で既習部分を徹底的に見直す。地形は資料集の写真や模式図を使って目で覚えた方が早い。また、地図帳を使って、授業で出たり、試験で出た地形の名称（とくに安定陸塊・古期造山帯・新期造山帯の具体的事例）を覚える。次に基本問題集を解いて、知識の定着をはかる。その際、学校でやっていない分野は余裕があれば取り組むとよいが、まずは、学校でやった範囲に重点を置く。2回ぐらい通読するとよい。

B 知識の詰め込みに入るが、基本的に問題を解きながら、知識を詰め込んでいく。したがって、分野ごとに整理されている基本問題集やセンター型（地理はたいていセンター型になっている）の問題集を使って、知識を詰め込んでいく。

C 実際のセンター型の問題集で試していく。わからなかったら辞書型の参考書で知識を確認する。

以上のようなやり方でやってみても、どうしても地理に向かない時は、「倫理・政経」を考える。（現代社会は2単位科目なので、第一志望だけを見て現代社会にしてしまうと、受験校がその学校のみになってしまうので、選択は慎重に。）「倫理」は哲学的な科目で、人名と思想を一致させるような科目、政治経済は、憲法や経済の仕組みを理解する科目で、時事問題に強かったり、ニュースに関心のある人は向く。やることは地理と同様、参考書となるようなものを手元に置き、知識確認型の問題集で知識を詰め込むという作業になる。

夏休みの課題

科目	内容	提出期限	提出先
現代文	1 読書ノート 2 社説ノート 3 問題集ノート（10題以上） 4 JICA作文 ※やり方については夏休みの学習の指針（p.3）を参照のこと	8月30日	国語係が回収後、 教員ロビーへ （番号順）
古文漢文	1 課題テキスト （7月20日に返却BOXを通じて配布予定）	8月30日	国語係が回収後、 教員ロビーへ

英語	1. 英語総合問題集-UNITE ※ 解答は提出ノートに記入 (最初の授業では、問題冊子と提出ノート 両方を持 参すること！)	夏期休暇 明けの最 初の R. 授 業	*授業中で解答冊 子を配布→答え合 わせ→提出
数学 (中入)	1. 短期攻略センター数学Ⅱ・B (基礎編) stage1・stage2 類題 (単元: 高次方程 式・図形と方程式・三角関数・指数対数・微分積分・数列・ベクトル 82~84、 86~87、89~90) 2. FocusGold 数学Ⅰ・A p70[s18]、p112[s11]、p210[3-2]、p166[s21] p270[s33]、p384[s12]、 3. FocusGold 数学Ⅱ・B P130[20]、p132[2-4]、p500[s26]、p557[s36]、p107[s11]、 P226[s32]、p285[s28]、p286[s32]、p335[s21]、p334[s13]、 p397[s18]、[s22]、p446[s12]、p447[s21]、p574[s9]、p590[s15] p629[s22]、p630[s24] 1の宿題はノートを用意して演習。2の宿題は所定の用紙に演習	8月30日	数学係が回収後 教員ロビーへ
数学 (高入)	4. 短期攻略センター数学Ⅱ・B (基礎編) stage1・stage2 類題 (単元: 高次方程 式・図形と方程式・三角関数・指数対数・微分積分・数列) 5. FocusGold 数学Ⅰ・A p70[s18]、p112[s11]、p210[3-2]、p166[s21] p270[s33]、p384[s12]、 6. FocusGold 数学Ⅱ・B P130[20]、p132[2-4]、p500[s26]、p557[s36]、p107[s11]、 P226[s32]、p285[s28]、p286[s32]、p335[s21]、p334[s13]、 p397[s18]、[s22]、p446[s12]、p447[s21] 1の宿題はノートを用意して演習。2の宿題は所定の用紙に演習	8月30日	数学係が回収後 教員ロビーへ
理科	物理 : 夏休み明け初回の授業で7月考査と同形式のテストを行 います。千葉大・マーチと思うなら 70 点以上は絶対に必要。 その他大学は7月考査分析参照。 化学 : 授業で指定された通り 生物基礎 (理系: 生物・化学選択者) : 前期期末テストの範囲 のプリント、問題集 生物基礎 (理系: 物理・化学選択者及び文系選択者) : レッ ツトライノート (~p. 31) まで。直接書き込んで提出	8月30日 8月30日	理科係が回収後 教員ロビーへ 理科係が回収後 教員ロビーへ
社会	世界史・日本史 新書などを読む, 博物館などに行く, どちら かの課題 (詳しいことはプリントを参照してください) を所定 の用紙に記入してください。 地理 文系・理系とも世界の主な地形の名称のプリントを完成 させる。期末試験で出題する。さらに文系は、国名と首都名の プリント覚える。期末試験で出題する。	9月1日 休み明け 最初の授 業	教科係が回収後, 出 席番号順に並べ松 原先生まで提出 各授業で回収
ターキー	数学 軌跡と領域 一般角と三角関数 ※7/16の範囲を実施します (月曜時間割だったため)	9月3日	9月1回目です。 必ず合格しよう!

オープンキャンパスのすすめ

すでにオープンキャンパスの案内をしてありますが、この夏から秋はオープンキャンパスの季節です。現在の大学受験状況では、次の2点から、2年次がオープンキャンパスのシーズンになります。

- ① 大学入試方法が細分化され複雑であること。各大学では、同じ学科でも何方式も試験方法が違うので、しっかり調べないと来年の科目選択もままなりません。「私立文系だから英国社」というような感覚では自分に合う入試型が分からなくなってしまうでしょう。
- ② AO入試があること。AO入試は、エントリーがあったり、小論文や参考資料、面接、プレゼンがあったりします。つまり、準備が必要でその準備に長く時間を割かれます。

以上のような点から、2年のうちにオープンキャンパスに参加することが重要です。オープンキャンパスでいろいろな情報を仕入れましょう。先生方も大学のキャンパス情報や入試情報など全てわかるわけではありません。こうした情報は予備校でさえ、資料で見ることではできても、誰かに教えてもらうことは不可能です。情報は自分でとるということを忘れないようにしましょう。

レポートは8月30日提出です。秋以降もしっかり行くようにしましょう。

模試情報 8月30日 第2回全統高2模試

教科	出題科目	出題内容	時間
英語	英語Ⅰ・英語Ⅱ オーラル・コミュニケーションⅡ	発音・アクセント、会話、文法・語法・熟語、整序作文・和文英訳、長文総合問題	80分
		聞き取り	10分
数学	数学Ⅰ・数学Ⅱ 数学A・数学B	数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ(小問集合)、数学Ⅰ(2次関数)、 数学Ⅱ(図形と方程式)、数学Ⅱ(いろいろな式)	100分
		数学A(確率)	
		数学Ⅱ(三角関数)	
		数学B(数列)	
		数学B(平面ベクトル)	4題から1題選択
国語		現代文(評論)、現代文(随筆・小説)、古文、漢文	80分

今後の予定

日時	予定	備考
8月30日(金)	始業集会・河合模試(国数英)	
8月31日(土)	平常授業	
9月3日(火)	期末試験2週間前 ※ターキー再開	
9月17日(火)~20日(金)	期末考査	
9月21日(土)~30日(月)	平常授業	
10月1日(火)~3日(木)	自宅学習日・増穂祭準備	
10月4日(金)	増穂祭準備日	
10月5日(土)・6日(日)	増穂祭	
10月7日(月)	片付け・終始業式	
10月8日(火)・9日(水)	代休・秋休	
10月10日(木)	スタディサポート(国数英)	
10月11日(金)~	平常授業	
10月12日(土)	保護者会	